

研究タイトル：

行政組織から見る「帝国」清朝の支配形成



氏名：	半田 真士 / Shinji HANDA	E-mail：	handa@kochi-ct.ac.jp
職名：	助教	学位：	博士(文学)
所属学会・協会：	満族史研究会・社会文化史学会		
キーワード：	中国史、清朝、官僚組織、科举、漢文・満洲語史料		
技術相談 提供可能技術：	・政治史・制度史に関する研究 ・中国・内陸アジアに関する研究 ・漢文・満洲語で記された文書の解読技術		

研究内容：

● 研究の概要

清朝は中国最後の王朝であるとともに、マンチュリア(満洲、現代の中国東北地方)・漢地(我々が想像する狭い意味での「中国」)・モンゴル・チベット・新疆とそこに住む多様な人々を領域に収めた「帝国」でもありました。この「帝国」としての清朝の領域は、中華人民共和国の領土の基礎となっています。つまり、現代の中国で発生している各種の民族・領土をめぐる問題の発端には、「帝国」としての清朝の支配があると言ってよいでしょう。私は、その清朝による支配の形成過程に着目し、特に支配の実行役であった行政組織がどのように形作られ、「帝国」に対して有効な支配が行われたのかを研究しています。研究にあたっては、中国史研究で通常用いられる漢文史料だけでなく、清朝の支配層であった満洲人の言語である満洲語による史料も利用しています。

● 研究の成果

(1) 清朝の行政組織の形成過程に関する研究

1644年の漢地進出時を中心とした清朝の行政組織形成に関する研究の結果、清朝は前王朝である明朝の制度を受容して、それによって前王朝に属した官僚・知識人たちを安堵させつつ、自らの都合に合う形で取捨選択を行うことで柔軟かつ円滑に自らの支配を確立していったことなどを明らかにしました。

(主要成果)

半田真士(2024)「清初入関前後の行政組織の官制とその運用原理の推移：官位・品級との関係に注目して」『史境』83号

半田真士(2023)「清代前期における貢生の地方官登用の展開とその影響」『社会文化史学』67号

(2) 満洲語史料の訳注

清朝の歴史を研究する上で、支配者たる満洲人の言語である満洲語史料は非常に重要であり、そのデータは言語学者にとっても有益な資源となります。そこで、私たちは多くの分野の研究者が満洲語史料を容易に活用できるよう、満洲語のテキストデータとその逐語訳・意識の作成・公開につとめています。現在まで、清朝の支配が拡大した最初期の段階である順治年間(1644-1661)の基本史料の1つである『内国史院檔』の順治元(1644)年分の訳注を公開しています。

(主要成果)

満文講読会訳編(2023)『内国史院檔 順治元年 I・II合冊本(附：順治満文実録・元年十月)』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	